

健康増進課訪問

健康ウォーキングマップのデータ利用のお願いをするため、健康増進課へ訪問を行うことになった。訪問のお願いから準備まで先生や TA に協力をいただきながら自分たちで行い、2014年8月12日に訪問した。



▲訪問時に使用したスライド資料の一部。図を用いることで誰でもイメージしやすいように工夫した



訪問準備

- ・スライドの作成
 - 事前メールで、発表環境について問い合わせ、プロジェクターが使用可能であることが判明した。そのため、スライドを用いてアプリの具体的な案やどのようにデータを使用したいかなどを発表することにした。

課題

- ・健康増進課の人は情報リテラシーが低い可能性がとて高い。
 - スライド資料は誰が見てもわかるように図を多く用いた
- ・データの利用許可をいただけない可能性がある
 - 他のデータリソースも検討しておく

氏名	部門	交遊	影響度	大・中・小	関心度	高・中・低	賛否	賛成・反対
Aさん	保健士		中	高	賛成			
Bさん	保健士		大	高	賛成			
Cさん	保健士		中	低	賛成			
Dさん	保健士	Aさん	中	中	賛成			
Eさん	保健士		中	中	賛成			
Fさん	高槻市保健福祉部健康増進課		中	高	賛成			
Gさん	高槻市保健福祉部健康増進課		中	高	賛成			
Hさん	高槻市保健福祉部健康増進課	講師	高	高	賛成			

▲ステークホルダー登録簿の一部

訪問終了後

- ・ステークホルダー登録簿の作成
 - 健康増進課の方々の中でも誰が一番影響力がありそうかや、どの課題を優先的に解決すべきかなどの検討を行った。

新規課題

- ・健康ウォーキングマップは健康増進のために作られたもので、観光に使うのは難しいのではないか
- ・アプリの継続性はどうか
 - グループ内の大学院へ行く2名が、2018年4月までアプリのメンテナンスやデータ変更などの対応を行う
- ・同じコースを何度も歩いても、継続して使いたくなる機能が必要
 - コース達成率機能の再考することに決定した



2014年9月8日に無事データの利用許可をいただくことが出来た

アプリの実装

実装班とデータ班

○全員でデータ作成、登録をしてから実装をする場合

データ作成

×データに不備が見つかる
→ データ作成までみんなで後戻り

実装

実装でデータの修正がでるとまた、みんなデータ作成に戻ることになる

○実装班とデータ班に分担し平行して作業した場合



それぞれのタスクに集中でき、大きな後戻りが少ない
しかし、こまめな連絡やお互いの進捗確認が必要となる

アプリの実装は

- ・クラス図の作成とコーディングを行う実装班(2名)
- ・ER図の作成とデータの作成、登録を行うデータ班(2名)

に役割分担をして行った。データを全員で作成してから実装をすると、データに修正が出たとき作業の後戻りが生じる。しかし、データと実装を平行して行うことで、データがアプリ内でどう動くかを確認しながら実装とデータ作成と登録ができ臨機応変に対応できる。

課題

- ・データ班と実装班のこまめな連絡や進捗管理が必要
 - 必ず、水曜日と金曜日のプロジェクトの授業の始まりに、お互いの進捗確認をプロジェクターを使って行った

アプリの一般公開と今後について

2014年12月5日アプリの一般公開のご提案のため、健康増進課へ再度訪問を行った。



▲一般公開のご提案の様子

訪問準備

- ・スライドの作成
- ・アプリのデモの用意
 - アプリの内容をより伝えるために、実際のアプリを操作しながらプロジェクターに映して発表をおこなった
- ・配布資料の準備(別途資料)
 - 実際にアプリの内容や、App store にどのようにアップロードされるかを図を用いた資料を配布することで認識の違いを防ぐようにした。

訪問とその後

- ・元のサブタイトル「観光しながら、健康になろう！」だと、観光がメインとなっている。しかし、増進課はあくまで健康増進をメインとしたものとしてほしい。
 - サブタイトルは「はこだてのまちを歩こう!!」に決定した。